

船舶事故等調査報告書

平成21年1月29日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

事故等番号	2008横第50号	
事故等名	旅客船シンフォニーモデルナ油送船第二十一照平丸衝突	
発生年月日時刻	平成20年10月11日 10時05分ごろ	
発生場所	京浜港東京区日の出ふ頭 レバース	
事故等調査の経過	<p>調査の概要:平成20年10月11日 東京・船舶事故調査官が、第二十一照平丸の損傷状況調査</p> <p>平成20年11月6日横浜・地方事故調査官が海難報告書を精査し、B船船舶所有者に損傷状況について電話聴取並びに操舵機油圧配管図及び同油圧配管用高圧ゴムホース仕様書入手</p> <p>原因関係者からの意見聴取:意見なし</p>	
認定した事実		
船種・船名・総トン数	A 旅客船 シンフォニーモデルナ 2,618トン	
船舶番号	133158	
船舶所有者等	株式会社シーライン東京	
船種・船名・総トン数	B 油送船 第二十一照平丸 145トン	
船舶番号(IMO 番号)	129751	
船舶所有者等	平和海運株式会社	
乗組員等に関する情報	A 船長 三級海技士(航海)	
	B 船長 六級海技士(航海)	
負傷者	A 負傷者 なし	
	B 負傷者 なし	
損傷	A 左舷外板に長さ3mのペイント剥離	
	B 操舵機油圧配管用高圧ゴムホース1本(耐圧140kg/cm ² ・口径3/8インチ・長さ610mm)切損	
事故等の経過	<p>B船は、空倉で京浜港川崎区の係船地に向け航行中、勝鬨橋を航過したとき、右舷前方に停泊中の水上バスを認め、その後方への避行動作をとったところ、突然舵が効かず、操船不能となり、機関停止及び後進としたが、間に合わず、平成20年10月11日10時05分ごろ、京浜港東京区日の出ふ頭に係岸中のA船左舷中央部に船首右舷部が衝突した。</p> <p>B船は、船橋の操舵スタンドと操舵機室の操舵機油圧ポンプ及び油圧シリンダ間を相互に結ぶ銅配管(外径18mm厚さ3.0mm)の油圧ポンプへの配管の一部が高圧ゴムホース2本(長さ610mm及び同810mm)と結ばれていたが、同ホースが油圧ポンプ側の取付金具付け根部で切損していた。</p>	
事実を認定した理由	<p>気象・海象の関与</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>あり</p> <p>本船の高圧ゴムホースが10年以上交換されていない可能性があると考えられる。</p>

		<p>同ゴムホース表面にペイント塗装が施されていた可能性があると考えられる。</p> <p>操舵機室内の見回りが十分でなかった可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、B船が操舵機油圧ポンプ配管の一部に使用されていた高圧ゴムホースが切損し、漏油して油圧が保てなくなり、舵が効かなくなったため、係岸中のA船に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p> <p>同ゴムホースは10年以上交換されていないために、その材質が経年劣化して切損に至った可能性及び同ゴムホースにペイント塗装が施され、また、操舵機室内の見回り点検が十分でなかったために、切損の兆候であるゴム表面のヒビ割れ等の発見が遅れた可能性があると考えられる。</p>	
その他の事項	<p>B船船舶所有者は、今後高圧ゴムホースは、5年ごとに新替えするよう社内規定を変更し、同ホース周りの目視点検を十分に行うように改めて指示した。</p>	